

## 編集後記

50年の歳月は長いようで短いものです。

コロニア東山初期に入植された方々が相互親睦融和協同、それに子弟の健全な教育とすることで日本人会が発足し、試行錯誤の結果今日の **Associação Cultural Assistencial Nipo-Brasileira da Colônia Tozan** と運営されてきました。

幾多の難題があった事ですが、これらの諸事を得てきたのですが、その記録が少なかったことが記念誌の編集を難しくしました。

史実に忠実をモットウに編集を致しましたが、歴代の責任者がその任務を追行継続していなかったのではないかと思います。

歴史は一日で出来るものではありませんが、正確な記録は次世代の日本人会運営の指針となるので今後の記録の保持、継承が大事になります。

色々な方々から貴重な寄稿を賜り、感謝しています。また、日本語の構成はもちろん、一番難しかったブラジル語への翻訳に後藤郁代さん卓越した日伯両語の理解、松熊マリさん、松熊クララ(浦口クララさん)の翻訳、坂本サンドラさんのブラジル語の監修、紙面を持ちまして、御礼申し上げます。コンピュータを活用して、日本語の修正などに惜しまなかった大久保アメリカ氏に衷心よりお礼申し上げます。

総括の冊子組み立てに全面協力してくださったジョルナリスト **Hellen Naomi** 早野さんに深謝いたします。

この小冊子が日本人会の今後の運営に幾分か役たてれば幸いに存じます。

編集責任者

東治男

## 私の第二の故郷

池田光子

今から、三十年前の冬、私が最初に踏んだブラジルの大地がこのコロニア東山でした。澄んだ青空とその風が気持ちよく、それにもまして、そこに住んで居られた方々のお優しい心に触れて嬉しかったことが忘れられません。入植当時の苦労話も聞きました、本当の日本人の心がコロニアに存在しているのを知って感動しました。年配の方々の礼儀正しさに頭が下がりました。実に

素直で明るい子供達に出逢ったり、少しの間でしたが、日本語を彼等に教えたり少年野球の応援に夢中になったりしたものです。コロニア東山は私の第二の故郷になりました。この日本人会が五十年間続いてこられたのは日本人会執行部はもとより婦人会、青年会、野球部、ソフトボール部の支援があり多くの人々に護られて来たからです。コロニアの歴史を築いて来られた方々も自然齢を重ねて来られました。

この記念日にあたり、高齢化しつつあるコロニアの活性化に取り組む必要性を感じます。

まず、コロニアの人々の高齢化と人口減少が起きています。大家族が小家族になり、コロニアから離れた方、一人暮らしの方、養老院を考えておられる方もあります。ところがコロニアの人口は減って日本人会には近くの町からたくさんの子供たちが、野球、ソフトボールに入り、にぎやかになりました。それに日本人会を支援して下さる父兄もあり活性化してきており有難いことです。一方選手達が成人してくると日本人会から離れて行く傾向にあり、余り青年会活動が出来ていないのではないのでしょうか。昔の青年会にはいくつかの活動部門があり、盛り上がっていたそうです。

時代は変わってコロニアはサイクルが回っており、そのサイクルの中の大きな動力の担い手は若者たち、すなわち青年会にあるのです。

彼等に是非日本人会の活性化活動をしてほしいと望みます。

次に、長寿社会になって来たコロニアの人々の余生をより良く暮らせるようにしたいものです。もし高齢者のためのサークル活動の場を日本人会に設け実践するならば高齢者の方々にとってどんなにか大きな喜びと楽しみになる事でしょう。日本人会の会員がそれぞれ出来る事を提供し老若男女子供達の交流の場の作り、理想的老人社会を大きな課題として追求実現して行きたいと望みます。そして将来コロニア東山に安らかで快適な老人ホームが出来たらと介護や住む場所などの心配事が解消され、家族も安心できるにちがいありません。

## 大橋兄弟が確実にしたゴヤバ栽培

聞き人 東治男

ゴヤバ栽培を始めたのは入植三年目の1964年ジャガリウーナでゴヤバを栽培しておられた恩田春治氏（コチア産組員）から種子を分譲してもらい栽培指導を受けました、この時点においてはほとんどが実生で増殖が行われ、コロニア在住の渡辺光一氏も同じころにゴヤバ栽培を始められました。

彼は、出荷量が多く、コチア産業組合一の出荷量を誇っておられたようです。

この当時、すべて赤の種類で増殖も実生によるものでした。

ペドラブランかの熊谷氏の圃場で偶然に白のゴヤバが見つけれられました。

これは、改良というものではなく、自然変異によるものだということです。

増殖の技術も実生から芽接の方法に進み、急速に苗木の生産が進み、したがって白ゴヤバの生産農家が増えました。

このコロニア東山でも堤兄弟、片田、内田、藤本、後藤氏らが栽培を始めました。

どの作物も同じように、同じ時期に大量の生産物が市場に出回る、いわゆる生産過剰になり、値段が暴落し、次第に生産をやめる人が出てまいりました。

カンピーナス地方はこのゴヤバ栽培には適しているとおもいます。

過去に数回霜の害による立ち枯れもあり、出荷計画が狂ったこともありました。

霜害を克服して、徐々に回復してきました。

それというのは選定技術、施肥、灌水などの総合的栽培管理の細かい注意で一年間を通じ、生産量のコントロールができ、市場価格をもみながら、栽培できるおもしろみがあります。

一年中暇のない果樹栽培ですが、労力の分配もできるし、永年ゴヤバと付き合った私どもなりのゴヤバ人生です。

もっとも古い樹は36年生で、今もなお生産を続けています。

現在コロニア東山でゴヤバ栽培を続けておられるのは内田、後藤氏だけです。

## 東山ソフトボール

池田尚昭

東山ソフトボールチームから一九九〇年と二〇〇〇年頃に、ブラジル代表選手が選ばれて盛んな時期がありました。徐々に選手不足になりチームを組めない時期もありましたが今日まで絶えず続いている事は誠に嬉しい事です。

私は二〇〇二年にTボールを受持つことになりました。女子七名の選手ではじめ、選手不足で男子選手を借りての試合に臨んだこともありました。

コーペルコチア大会では良い成績をおさめることができました。次第に選手も増えてきて二〇〇四年全伯大会ではミリンチームが準優勝することが出来、その翌年にはTボール組とミリンチームが組めるようになり少しはにぎやかになりました。

そうして二〇〇六年全伯大会銅組部門で、ミリンチームが優勝することが出来ました。

二〇〇七年には年長組のインファンチームが選手不足のためチームが組めず、二人の選手を東山以外のチームに編入してもらい、そこでもこの二人の選手は活躍して帰ってきました。

二〇〇八年にはいよいよ三つのカテゴリのチームが東山に出来ますので楽しみにしている次第です。最後になりましたがマネージャーとはじめ選手のお父さん、お母さん方に練習を手伝っていただき多大なお世話を下さることに感謝しています。

それから、資金作りに乗り出し、日本人会や婦人会の方々の協賛を得まして資金カンパの為、コロニア東山の会館において映画の夕べを催すことに決めました。

当時は日本シネマの事務所はサンパウロ市リベルダーデ区にありましたので、役員三名でリベルダーデの事務所に行き、事情を話しますと、すごい好条件で契約することが出来ました。それから、会員の皆様全員に映画の前売り券の売りさばきに協力していただき、予想以上の成果を挙げる事が出来ました。

コロニア東山の会館にこれだけの人が集まったのを始めてみた日本人会の方たちも喜んでくださいました。

それから、急いで運動会に合わせる為、会員みんなでハッピー作りに励みました。

資金カンパで予想以上の資金が出来ましたので婦人会会員の身ならず日本人会の役員各位そして、盆踊りや、フォークダンスの男女青年会の方、日本語学校の生徒多数にまでハッピーをお送りすることが出来ました事は本当に婦人会の皆様方のご協力の賜物と今でも運動会で皆様方のハッピー姿を見るたびに、感謝いたしております。

その後、なお余剰金がありましたので、会館ようにフォーゴンやなべなどを整えました。

同じ年、11月東山農場の日本館の障子の張替えの依頼があり、後藤スミ子さん、小坪ヒロコさん、黒岩シズエさん、山口かおるさんと私五名で悪戦苦闘の末、障子の張替えは完了いたしました。

今ではうれしい思い出となりました。

1978年、6月18日は日本移民70周年記念にあたり皇太子殿下ご夫妻（現今上天皇）及び、時のガイズル大統領ご夫妻のご臨席席を得て、その式典がパカエンブ球場において盛大に催うされました。

当婦人会より16名の方もカンピーナス文教婦人会とともに総勢2千人の盆踊りの輪の中に入れていただき、参加することが出来ました。

そして、パカエンブ球場の満員の大観衆の拍手を浴びた感動は今も私の心に残っております。そのとき参加した16名のうち、6名の方がすでに幽明の境を異に致しました。実に感無量です。

1979年会長浦口ハルミ、副会長原田小枝子、会計宮尾勝代で私は二度目の会長を勤めさせていただきました。2月には野球部及び青年部のサッカー球場の建設資金カンパ、バザーなどに婦人会として協力が始まりました。また、年間行事として、料理、手芸などはもとよりピクニックや母の日、父の日、敬老会などが定着していきました。

1980年、夫浦口昭は急死したため、翌1981年3月私はコロニア東山よりカンピーナス市へ移転いたしました。

2005年現婦人会会長山口マサ子さんより私にも入会のお誘いがあり私は喜んで入会させていただきました。

雑用に追われ、出席率の悪い会員ではありますが、これからは出来る限り出席して若い方たちのパワーをいただきたいと思って降ります。

最後に、コロニア東山婦人会のますますのご繁栄とご検討をお祈り申し上げます。

## 創立20周年記念の思い出コロニア東山婦人会と私

浦口ハルミ

1968年11月、私の一家はコロニア東山に入植いたしました。

それまで、日本人ばかりの植民地を二、三ヶ所転々といまいましたがどうしてもブラジルの生活に慣れることの出来なかった私は、夫を何とか説得して日本へ引き上げることばかりを考えて暮らす毎日でした。

そのため、言語、習慣、食べ物などブラジルのものは拒否し続けかたくなに自分の殻の中に閉じこもっておりました。

ところが、コロニア東山に入植して大勢の方々の暖かい心に触れ、私の心は次第に開いて参りました。

特に、ブラジル生まれの奥様方の巧みな日本語、礼儀作法に触れたときこの地、コロニア東山なら私も生きていけるかも知れないと感じました。

そして、一日も早く皆様方とお友達になりたいと願うようになりました。

そのためには、婦人会を作り、大勢の方々に集まってもらって色々なおはなしが出来たらどんなに嬉しいであろうかと思いました。

そこで、夫にはなししたところ、賛成を得ましたので、池田虎之輔氏夫人、俊子様にご相談申し上げました。

俊子夫人もそれは本当に良いことだねといってくださったので仲良しの後藤あさ様をお誘いして、三人でまず、コロニアの長老の方々の説得に乗り出しました。

池田虎之輔様をはじめ、大橋和夫様、田島至様、渡辺光一様にご相談申し上げましたところ、全員の方々より大いに賛成の声を頂、とても感動いたしました。

しかし、この説得行脚は池田夫人、後藤あさ様と私三人が傘をさして歩いて1軒、1軒を廻り、一日がかりの大仕事でした。

今、考えると実に冷や汗ものでした。

その後、コロニア東山日本人会、ならびに各方面の方々のご支援の下、1970年、8月23日に会長池田俊子、副会後藤等あさ、会計原田小枝子の態勢の下、婦人会を結成し、発足することが出来ました。

それからは、毎月例会を行い、料理屋手芸など楽しい日々が続きました。

その後、運動会にフォークダンスや盆踊りを取り入れて小さな子供たちも練習に励み、愉しく踊ったものでした。

1973年、私は会長を引き受けましたが、ポルトガル語はもちろんブラジル社会のあり方も一向にわからない私は副会長後藤スミ子、会計小坪ヒロコと日伯両語が堪能な二世の方にお問い合わせ態勢を整えました。

そして、かねてより婦人会の念願でありました。ハッピー作りに取り掛かりました。

その頃は現在のように美しい既製のハッピーはありませんでした。

## 私の心のふるさと、東山植民地五十周年おめでとう

石井さゆり

がんばり屋で、温かい心の持主の住む所。

小さいころ、東山新聞に、私のつたない作文出させていただきました。今、あのころを思い出しながら、書いています。

私はツッパンと言う町で生まれました。けれど、赤ちゃんのころそこを出たきり、行ったことがありません。ですから、何一つ、生まれ故郷の事はわかりません。

私が覚えているのは、ステキな優しいお友達と過した日々。苦勞を知らず、楽しい毎日を過すことができたころです。

毎日畑仕事でせいっぱい頑張り、日曜日には野球場で陸上、教会で日本語の勉強、会館でピンポンやコーラスや演芸のれんしゅうでした。仲の良いお友達が大勢いました。

今、幼なじみの方々と時々出会う時とは東山運動会です。

皆さんと会うたびに涙がにじむほどのなつかしさと幸せな気持ちでいっぱいです。

子供のころの思い出が頭の中で一斉に飛びはねます。ほんとうに、あの日々の思い出はなつかしいものです。東山へ行くたびに、ここは私の心のふるさとだと感じます。

優しかった父、頑張りやの母、しっかりやの、頼りやすい兄、姉妹大勢(七人)、そして、かけがえのないお友達のおかげで、楽しい毎日と過すことができました。

すばらしい家族、親戚、お友達、御近所の皆様、今あらためてお礼を申し上げます。

私の幼年時代をこのような良い、すてきな経験と思い出、そして幸せいっぱいの、とても歩みやすい道にみちびいて下さったことをふかく、ふかく感謝しています。本当に、有難うございます。

今後共、益々そのご繁榮をお祈り致します。

## 一大花卉生産地を形成

山口幸男

私に家族が東山植民地に入植したのはブラジルに移住して6年後の1966年5月でした。その頃の主な産業は養鶏と野菜栽培が多くトマトの栽培は最盛期を過ぎ、ビールスが入り成績が悪くほとんどの人がやめるのが多く、トマト栽培をしても成功はしないといわれ、さて、何を作ったらよいか?と迷った挙句、ジャカレイの親類に進められ、花つくりを決心してバラとグラジオラスを作り始めました。

村の長老の方々はカンピーナス近郊は花栽培には適しないと忠告を受け、高冷地でなければと迷いに迷ったのですが、一か八かで作り始めたのです。

その頃は花の栽培者が少なく特に寒い地区での生産者が多かったので、冬の寒い時期には花がなくなることが多く、カンピーナスは寒い時期でもまあまあの花が出来たため、かえって儲けが出て生活が成り立ったようになったわけです。

でも、グラジオラスの栽培にサビ病が発生し始め、せいせきが悪くなり、生産量もはじめその頃から1985年ごろ電照菊の生産が始まりグラジオラスから電照菊栽培に切り替え、2003年まで続けました。

植民地内でもその電照菊栽培が増え、田島、井手、太田、深沢、増永、佐藤、大橋、野田、など多くの花生産者をかかえるようになりました。

今では、ブラジルの生産量の何割かをしめるオランブラが近くにありますが、私が花作りを始めて10年後に花の栽培が始まったように記憶しております。

ブラジルの花の消費量は多く、将来的に見ても花つくりは未だ見込みはあると思います。

山口幸男 グラジオラス電照菊(切花)宿根、かすみ草、

山口定次 電照菊(切花)、鉢植、観葉植物、他

田島正一 グラジオラス、プリマベラ

深沢秀史 ビオレッタとベゴニア

井手伯男 電照菊、トルコキキョウ 他

太田正一 プリマベラ

増永勉 電照菊(切花 鉢植)

佐藤たけし 電照菊、ビオレッタ

大橋 電照菊 ラン

野田 電照菊

1999 年会館の敷地の周りの有刺鉄線を設ける。浄水塔の水漏れがひどくなり、新しく購入してすえつける。会館のトランスホームドールが焼け、新しく取り替える。ついでにパラハイオ柱も新しくする。経費は宮尾忠義と半々づつとす

2000 年会員の減少と会の経費が増加することによる会計収支の悪化から会員を増やすよう三月臨時総会を招集し、対策を練る。その結果会則を見ると、植民地内に居住しなくとも近隣の町や農地に住む人で三人の会員の保障があれば正会員となれると会則で決まっているので、特に野球ソフトボール子供たちが東山でやっている人の父兄など中心に日本人会に入ってもらおうよう呼びかける。

その結果 15 名ほどの新入会員の入会を見る。入会金として 50 レアルを収めるほかは旧会員と同等の権利を得る。

2001 年会の経費を補うため、カラオケ大会を行う。5 月 20 日挙行カンピーナスカラオケ愛好会東山日会会員、婦人部、野球部の協力を得て大成功に終わる。

6、800 レアルほどの純益を得る。

2002 年年中行事としての運動会ショッピ祭り援協巡回診療などをこなす。

2003 年前年どおりの行事をこなす。

2004 年一月の定期総会にて新会長井手武利氏に会長職を引き継ぐ。私にとって 8 年間は長すぎた感じがしますが、これから新会長のもと、東山日会がますます発展しますことを願って筆をおかせていただきます。

## 八年間の会長時代の回顧

山口幸男

東山農場が農場の一部を切り売りして日系人役50家族が入植するわけですが、その最初の方が入植されて50年ほど経過いたしました。

このたび、50周年を記念して、記念誌を出すことになり編集者より前日会会長としての8年間の回顧録を書けということですが、10年以上の前のことを性格に記憶しておりませんので、多少年代などに誤りがあるやも知れませんので最初にお断りしておきます。

私が東山日会会長になったのは1996年1月12日の定期総会において選挙により、選出されて以後2004年一月の総会にて井手武利氏に会長職を引き継ぐまで8年間会長職にとどまっていた次第です。

八年間の在任中の出来事を年代を追ってみたいと思います。

1996年4月20日と21日の2日間に亘り行われましたゲートボール全伯大会、これは当時のゲートボール部長であった井手伯男氏が詳しく書かれることになっておりますので簡単に記しておきます。

この大会は全伯より250チーム、1250名ほどの参加を見まして、野球場二面を使い、盛大に行われました。

日会の会長としてまた大会の委員長として、前の準備、後片付け、遠くから来る人のホテルの世話など忙しく働いたのを思い出します。

この大会のために、会館の壁の塗りなおし、入り口の修理、ポルトンの新設を行う。

1997年7月に行われる運動会の観覧席にアルミの屋根をかける。経費は日会の手持ち金と不足の分は寄付金で賄。

日本人会の運営資金を得るため、第一回ショッピング祭りを挙げる野球部父兄オールドボーイ、婦人部の皆様の協力を得て、大成功に終わる。以後毎年恒例行事となる。

会館の前にあった旧日本語学校が古くなり、壊れそうになっていたのを壊してバラコンを新しく建てる。

1998年東山日伯文化協会創立40周年記念式典を開催カンピーナス市長、カンピーナス日会、および近隣の日本人会、明治会、植民地の旧入植者などを招待して盛大に挙行。歴代会長14名に記念品を贈呈、記念植樹をし、宴会をして終了。

この年の下半期の事業として、会館の屋根材料がユウカリ材を使用していたため白蟻の被害を受け、一部屋根が落ちかかっていたため修理の必要に迫られ、会員より寄付を集めて修理することを決定。建設委員を決めて決行する。屋根のかわら、材木、天井板、バテンチ、ポルタなど全部取り替える。

なお、この年日本人移民90年祭がサンパウロ日伯文化協会主催で行われ、東山日会も参加、婦人部の皆様は祭典での踊りに参加する。

対2か3で勝っていたのが力つきて逆転負けとし、初戦を飾れなかったが聖北地方にも良いチームありと全伯に名を知られるようになった。野球に限らず、陸上競技大会にも優勝、卓球大会にも出場し、好成績とおさめるたびに会館で祝賀バイレが催され、ピングやビールと飲んだいきおいでダンスとしたもので飲んでいないと踊れない気の弱さがあったことを思い出す。

1963年には研修生3回生が入り、MACUCO チームに延長のすえ、勝利をつかみ、準決勝では INDAIATUBA チームに9回逆転勝ち。優勝戦は PEDRABRANCA チームに勝って輝かしい3連勝をつかんだのである。63年のこの大会には若林さん西君はコロニア東山分譲地を販売していた東山不動産の吉井さんが後援していた SAOPAULO チームにある明星チームに移籍して出場しなかった。

わがふるさとコロニア東山も入植50周年記念を迎え聖北地方の野球のメッカとして現在も盛んであり、野球も我々が汗して作ったもの、他に観覧席のある立派なものを有し西君も年2～3回オールドボーイ大会に出、旧友と昔話に花を咲かせ運動会、フェスタダフェイジョアードにとふるさとに帰り、なつかしの昔のお嬢さんや飲み助連と交友を温めている次第である。

また逢おうぜ！！

## わがふるさとコロニア東山

西忠久

若き西君1958年5月東山農場研修生として朋友20名と共にバスでサントスからカンピーナス東山農場に真夜中到着、前夜かなりの降雨があり本部前の池の所の前の登り坂があがれず、研修所までトラックで行く途中雑木林の中シカや大トカゲ等がとびだしてきて大変な所に来たものだと話し合ったものだ。東山研修所といっても農場が分譲地として売り出したコロニア東山の一角にあり二棟の宿舎と教室兼食堂の家屋があるのみ。土・日曜日には入植者の家にお邪魔したものである。

6月日本移民50年祭式典がサンパウロレイビラプエーラ会場で盛大に催された我々21名濃紺の背広をきたほやほやのMACACO NOVOが会場中央部に入ってきたので会場の人々も物珍しくざわつく、あれから50年。日本移民100周年コロニア東山入植50周年、それに我々の50周年在伯記念の年感無量である。

さて、若き青年学習実習のみでは血気盛んにもサッカーに野球に卓球、碁、将棋に余暇を楽しむもやっぱり野球。教室に隣接地に野球場を作り1959年3月植物軍対動物軍（獣医、畜産関係者）に別れ、試合が行われる。。。結果はどうなったか？

その後コロニア東山にも青年会が生まれ、会館が出来、青年有志によって野球場がトラクトールやエンシャダで作られ、時々練習するようになる。

研修生も2回生が着伯吾が球友若林さんと本格的に野球部が発足、部員は14～15名。堤3兄弟、牧田兄弟、後藤のタケちゃん、佐藤の5男方、ヒガのトクジン、黒田ジョウジ、内田、瀬戸口、山田、若林、西といったところか。

1961年3月コロニア東山球場にて聖北野球大会が開かれ池田総監督野田監督のもとJUNDIAI チームに10対0と初戦を飾り準決勝でCOMETA チームに10対5。決勝はPEDRA BRANCA チームと対戦打撃好調なコロニア東山の選手は女子青年団

父兄の方々、研修生を中心とした応援団にも助けられ、20対6と大勝することが出来、西君最優秀選手賞になり、入植3年にして得た大きな出来事であった。

しかし、9月にBOM RETIRO 球場で行われた全伯大会ではLONDRINA チームに17対0とコールドゲーム負けと喫いてしまった。

ついで翌1962年3月MACUCO 球場で举行され初戦強豪と目されていたSALTO、ITU チームに16対4、準決勝はCAMPINAS チームに11対3で勝ち進み、決勝でINDAIATUBA チームと24対4と大勝、二連勝を飾り若林さん最優秀選手賞、西君最優秀投手賞を手にする事が出来た。

4月には青年団の資金かせぎに東山農場に綿に行き、初日46名がさんか、1280kgをつみ、2日目44名女子青年の人々をつみ競争をし、1406kg収穫した楽しい思い出がよみがえる。

9月に全伯大会にコロニア東山のユニホームで聖北選抜チームで出場、菅田、清という、全ブラジル軍の投手を容するSÃO PAULO チームと対戦7対4で破れるも大善戦、7回まで4

コロニア東山の50周年を迎えた今トマトを作って何を感じたかと言えばトマトの昔の味が変わった事、昔のトマトは本当においしかった。また、電気水道の無い泥壁の小屋の生活、家族が一つになって仲良く元気に働き暮らした思い出が一番だったと思い出されます。

## トマトの出来栄えを見に来たタマンドア

佐藤鉄三郎

われわれがコロニア東山に入植したのは1957年サンパウロ州奥地のコーヒー園の仕事に見切りをつけて何か新しい仕事にとそこを出た年ブラジルに移住して3年目のことです。

経済的ゆとりも無く、でも悲観的ではなく、大きなゆめを抱いて物事に当たっていました。当時のコロニア東山はトマト栽培が主力でした。

トマトの果実は知っていても栽培方法など皆目わからずとなりに入植されたかたがたの親切な指導の下に一応の成果を得ることが出来ました。

毎朝早くトマト畑を見るのが好きで自分の背丈より高く、成長した畑の中をよく歩きました。ある朝、まだ薄暗い畑の中を人が歩いており誰だろうと近寄ってみたら、人と大きさが変わらない大きな動物が肩を左右に振って歩いており、それを見たときの驚き心臓が音を立てて打ったのを今でも覚えています。

すぐ家族に知らせ、戻って来ましたが、動物の姿は見当たりませんでした。跡で調べてみたらタマンドアということ日本語で蟻食いと言う哺乳動物で強力なつめを持っていて人間などに抱きついて殺すこともあるということでした。

タマンドアがわれわれのトマトの出来栄えを見に来たのだらうと笑ったものです。

観水用の小川の周囲にはカピバラ（齧歯動物でもっとも大型）鹿、タツ（アルマヂーリョ）鈴蛇など日本では見られない動物がいました。

日本を出発するとき広いブラジルのことだから農業は全部機械化されていると思っていましたが、機械化されているのは大農場の一部だけで牛馬による農耕が主力で期待はずれでした。トラクターを使って農業する夢を見たものです。

余裕ができ、古いトラクターを手にいれたときの喜びは今も忘れません。機械力と人力の差は考えられないくらいで、仕事の効率もよく、全体として生活も安定してきました。

農業経営を進めていく上に大きな力となったのは農業組合の組織でした。植え付け計画、肥料設計、栽培技術の指導生産物の販売など日本人、日系人の支援は大きなものでした。

ブラジル人社会との交流も盛んに行われ、友好的なものでした。

われわれが特別な技術を持っていたわけでもありませんでしたが、ブラジル人労働者は自然と見よう見真似で覚え今では日本人より野菜全般の生産販売は大きく伸びています。

ことあるごとに組合に出入りしていましたが各地で起きている自然災害などのニュースがわかり、降霜による被害降雹による全滅と聞くニュースの影に今度はおれの生産物が高値で取引されると言う災害を蒙った人の心を無にして喜ぶ面もあったようです。

雹交じりの西空を見ながら自然に両手を合わせ、神に祈っている弱い自分を知る思いでした。コロニア東山ではトマト作には土地が限定され、連作は出来ず、病気、害虫の発生で養鶏花卉果樹栽培へと移り変わって行き、それに伴い高い技術も要求されるようになりました。

## 私の野球指導の理念

内田高昭

コロニア東山入植50周年おめでとうございます。コロニア東山入植50周年を記念して、記念誌を発行するとの事、編集責任者、東、佐藤、両氏から東山野球部の生い立を書けとの事、三十年前の事で、正しい記憶がありませんが、自分なりに記して見たいと思います。当東山植民地に於けて、スポーツによるブラジル日系二三世の健全なる体育練成、又、野球を通じて心身健全な育成を図る目的で、東山野球部が生まれました。

二十五年以上に亘り、私の東山野球部の指導理念は、練習でどのように指導するか研究と追究でありました。まず、練習は基本、基本を何度も何度も反復して、技術を身につけ精神力を鍛える頭のトレーニングが必要です。少年野球の一番大切な事は野球が上手になるのだけではなく、人間形成であるから、野球バカを作らない為にも社会に出て通用する人間になる為にも精神面の勉強が大事で、私が一番大事にしている理念です。子供の野球は良き指導者親の理解と協力がなければ発展も進歩も考えられません。私が二十五年間指導を続けられたのも、良き指導者、山岸氏、小島氏、堤氏、坂上氏、河辺氏、水上氏、池田氏、深沢氏、又野球部役員東氏、佐藤氏、増永氏、結城氏、山口（兄）氏、父兄では武田氏、井手氏、宮尾氏、山口（弟）氏、婦人部の協力と理解の賜物感謝しています。二十五ヶ年間には、色々なことの思い出が有ります。1) 東山野球部から総計二十名のセレッソブラジルの選手が選抜され、日本、アメリカ、メキシコで国際試合を通じて、知識や人生体験と得、人生縮図して深い意味を持ち、将来役立つ事がある事と思います。2) プロ選手誕生、クレベル小島君は台湾国、マコト(?)、コープラスチームの投手として活躍、正確なコントロールと百五十キロのスピードを投げ下ろす、正当派投手健闘と活躍を祈っています。3) 涙飲む東山、第四十五回全伯少年野球大会決勝戦でロンドリーナチームに三対一で準優勝、タカシ、山口君がキャプテン、チームを良くまとめ、準決勝戦では昨年の優勝チーム、マリंगाを激戦と展開、守備の型が定評のある東山、五対三で決勝戦とこまを進めた。この選手達が今後東山野球チームの指導者が誕生する事を期待しています。4) 2007年ブラジル国、主催パン・アメリカ野球大会で我々の野球部出身の山田君、小島君がブラジル対ニカラグアの第一試合に出場、一対ゼロで勝利、山田君が先発、小島君がおさえで出場、めざましい活躍でブラジル選手の随一の勝利に貢献御目出とう。

以上を以って東山野球部の思い出を書いて見ました、今後の東山野球部の御発展と御活躍を御祈りして居ます。

これまで述べてきたように学習対象者が複雑であることや教材が不足していること、親の意識の変化などが原因で継承日本語教育は難しい局面に立っていますがその教育の意義と重要性を日系社会がどれほどの的確に把握しているかが問われているともいえます。

多言語、多文化社会へとその傾向を強めている日本の社会においても同様のことが言えます。外国人就労者たとえばブラジルから日本へ働きに行った日系人の子弟は外国籍の子弟としてそこで健やかに成長するために親の言語を継承語として学びつつ、日本語を第二言語として習得していく必要があるのです。

コロニア東山においてはどうでしょうか。皆様のお考えをお一人お一人に聞いてみたいと思っているのです。

## 継承日本語教育の意義

佐野ハ秀子

コロニア東山50周年おめでとうございます。

50周年記念の記念誌を作成するに当たり、継承日本語教育について書いてくださいとの依頼がありました。

部外者ではありますが、日本語教師としての立場から昨今考えさせられていることを書かせていただくことにいたしました。

日本語教育はおそらく海外に移住した日本人が最初に取り組んだ課題であり、日系子弟のための教育として各植民地に日本語学校を作り、継承日本語教育としてさまざまな変化がありました。100年の年月を重ねるうちに現在に至っていると思われま

す。異国の地で子や孫に自分たちの持つ言葉や文化をつたえ、その国で健やかに成長してくれることを願って始められた言語文化の教育がどのように現在どのような問題が生じているのでしょうか。

ブラジル日本語教育センターや日経新聞の記事など、参考に記して見たいと思います。2005年12月ブラジルサンパウロで他文化教育セミナーが開催され、私も出席傍聴いたしましたが、教育現場では驚くようなことが起きていました、つまり各民族の文化言語が失われつつあり、それを阻止するために公的機関がなんらかの手を打つ必要があるというものでした。

ブラジル、アルゼンチン、ドイツ、アメリカなどからこられた人々により発表され、論じられた主旨は次のようなものです。

われわれはそれぞれの移民コミュニティーRAIZES 文化的根っこを尊重しながら新しい市民を継承しよりよい強制状態を作る必要がある RAIZES を維持継続するには子供の時の教育が必要で州立学校の授業の一環として自分の RAIZ は何かを見つめなおすプログラムが作れないだろうかわれわれはそれを検討中である。

日系人口100数十万人を擁するブラジルでの継承日本語教育は現在300校を超える日本語学校で約2万人の学習者に対して行われており、また、約50校の公教育機関でも学校教育の一環として実施されています。

日系子弟のための教育として日語学校で始められた日語教育は現在継承を意識した教育と普及を意識した教育という二つの流れが出来たために多少複雑になっています。

アニメブームの影響で日系人ではない日本語学習者が急増し、日本語環境になく、しかも文化的関心の高い非日系人の学習者のための日本語教育が必要となったからです。

教師はその双方のニーズに対応するために指導方を模索し、研究して行かねばなりません。

日系、非日系を問わず、バイリンガル、バイカルチャーの資質を持つ子弟の教育という課題が浮上してきました。

## 野球場建設について

東治男

1970年代後半幼少年、青年 O.B.ともに野球熱が上がり、既成の野球場は各チームの奪い合いとなり、また軟球と硬球での危険性も生じもう一つ野球場を作るという話から測量を頼まれたものでした。ホースを使用する原始的な測量方法で荒地1アルケールくらい測量したとおもいます。

基点から一巡して2センチの誤差が生じ、前進法では許容範囲とその成果に凶に乗ったのが契機となって設計施工となったしだいでした。

顧問役に池田虎之助、建設委員長に山口三郎、委員に堤雄一、佐藤鉄三郎、宮尾忠義、増永勉、井手伯男、ほかに日本人会に所属していない外部の人も協力しました。その中には今は亡き前田好美氏も思い出されます。

確か16家族が結集して始めたことで日本人会全体がそれに賛同していたわけではありませんでした。

建設資金は全然目当ては無く、委員長山口三郎氏の私財提供は大きかったものです。地ならしに必要なトラックターの導入は外交を担当してくれた堤雄一氏、宮尾忠義氏の甚大な外交手腕に頼るものでした。伊波秀考氏を忘れてはなりません。土日曜日には自主的に集まりそれぞれ鍬、スコップを手にしたことです。バックネットは今は亡き、渋田氏に観覧席の屋根は後藤健氏、木材の提供は山岸貞夫などで最終的資金調達にはフォルックスワーゲンブラジリアを景品としたリップターの販売でした。運良くインディアツوبا在住の福本氏に当たったのを覚えています。

日本人会とは別会計で建設が遂行されたので会計も自ら別経理で資金調達には各方面を友人知人を通じ、寄付方をお願いし、また外野壁に広告を出すなど有名企業商店にも協力をお願いいたしました。

1980年8月2日幾多の腹を痛めましたが、安産ということで当時カンピーナス市長であった FRANCISCO AMARAL 氏を主賓に招きめでたく落成いたしました。

## 池田虎之輔氏の叙勲について

東治男

代は鹿児島県鹿屋下祓川の生まれ。

一九二七年宇都宮高等農林学校卒業と同時に東山農場練習生として渡伯。

東山農場支配人、ピンダモンヤンガーバ支場支配人を兼任、その間に壺岐俊子と結婚、一男三女をもうけ、一九四五年東山事業推進のためスマトラへ赴任、水田業作の指導にあたった。東山農場在職中に、一九三二年の改憲革命時戦場となった東山農場を職員の家族の安全処置など先頭にたち善処した。

事業面では、牛の改良取り組みブラジル在来種、カラクーを基本とする、インド牛ゼブーとの原交配を活用、八年間の改良の結果、全伯肉牛品評会で優勝。当時のバルガス大統領から称賛され、続の年も優勝、その改良種がインドブラジルと命名された。

一九五八年、再度で直接コロニア東山植民地に入植、日本人会の創立、カンピーナス農業組合の経営改善、全拓連グワタパラ農場の経営指導などを終え、コロニア東山で自営農、その傍ら東山農場顧問をつとめる。

コロニア東山入植当初からピメントンのウィルス抵抗性系統の選抜に取り組み、その抵抗性系統がカンピーナス農事試験場、コチア組合等で認められ、ピメントンイケダ種と命名され、現在も栽培されている。

これらの功績で一九七三年、山本善与司賞を受賞、一九九〇年には日本政府より、勲六等旭日単光章を受章。

にかけずり廻ったのも忘れられない若き日の一コマ。夜安宿に帰る前に私費を叩いて、当時日本から多くの若い女の子が来て働いていたスナックに行き大法螺を吹いて若気のいたりを発散させたのも、もう今はとっくに時効になったのでここで白状しておく。

六十一年は植民地のほとんどの土地に地主が入り青年会が人数的に一番多かった年だと思う、三代目会長に私が押し上げられ、三月に我が東山グラウンドで聖北野球大会が行われ念願の優勝を果たし、同年九月に聖北代表として全伯大会に出場する事になった。

サンパウロから名前を忘れたが甲子園出場経験のあるコーチを招いて五日間忙しい家業を差し置いて合宿練習をしたが往時の全伯大会の壁は厚く一勝も出来ず退散したが檜舞台に出た事は大きな経験となった。

五月にはモジアナ競技場で聖北陸上競技大会があり東山チームの圧勝に終わった。

聖北八地区の中で野球と陸上は敵なしの強さを誇ったが、ランプを灯しての夜の陸上の練習は昼間の仕事の疲れを押しして頑張ったという事でそれは矢張り皆若くて元気が良かったからだとなつかしく思う。

一つ特筆して置きたいのは青年会発足当時から運営と運動面において堤六人兄弟妹の活躍があったこと。彼等なくして東山チームはなかったと云っても過言ではないと言えよう。

六十二年は牧田稔氏が四代目会長になり陸上競技で三連覇を成し遂げた。

当時東山農場に日本から農業研修生が五八年、六十年、六十二年の三回に亘ってやってきた。それぞれ二十名近い男子青年が植民地内の道場で生活していた夜や休日はそれぞれ連だって植民地内の家庭訪問をして親交を深めて居た。

青年会とも横のつながりがあり中でも若林氏、西氏の二人は野球と陸上で我東山チームに入って活躍してくれたのは大きな強味となっていた。

六十三年以降は年輩組は引退して青年会も若返り指向で事業も運動面よりも娯楽に重さをおく様になったようだ。そうして六十五年には青年会は日本人会と合同したが、これは時代の流れで必然の流れと見た。

時は流れ最盛期は五十家族も居た植民地も今は十五家族位と言う。今は以前と違った形式で立派な組織の上に関係者がそれを盛り上げ、この度の五十周年記念誌製作を促進しておる事は一大事であることと思うが微力一助する事が出来た事を嬉しく思う。個人的には不遇や多忙の中も顧みず、日本人会や青年会発足時に尽くされた先輩諸代を称えずでにカンピーナスの大地に還された方々の冥福を祈りつつ掘稿を終わります。

## 青年会発足当時を回顧して

後藤健

此の度コロニア東山五十周年記念誌発行についてその打ち合わせ会があり OB の一人とし中でも古株の私に入植当時の思い出を一筆書けとの事で半世紀近い昔に思い出をはせている。東山農場の分譲地である我がコロニア東山に五家族程が入植したのは一九五七年末で油草ばかりが生い茂る第一区に入り、先づ住む家作りと畠作りに一生懸命だった。

近所付合もなかったが一九五九年の正月に、池田邸に招かれて十五人ほどの家長と少々の青年男女が集まった。

池田日会長の音頭で新年会を祝い、出来たばかりの邸は卓も椅子もないサーラでエンセラーに座り、あたかも山賊同様、東山農場からの東麒麟で祝杯をあげたものだった。

当時の日本人家庭には男女青年が多く、その場で青年会を作ろうと云う事になり、佐藤隆俊さんが指名され、初代会長に決まった。

日本人会も四区に分けて、それぞれ区長を決めた。五九年のあの正月が事実上のコロニア東山の発足だったと思う。

入植間もないころは二三の例を除いてどの家庭も経済的に貧しく、営農資金は組合やサンパウロ市のバラックイロに融資を仰ぎ東山商事には土地代を残していたので五九年度、ほとんどの入植者がトマト作りを主体に一生懸命だった。青年会は忙しい仕事の中、男子は野球チームを作って近隣植民地、アマライス、ペドラブランカ、マクコ等のチームと交歓試合を楽しんでいた。

CATI 農事試験場の四 S クラブを農家の若者間に広める為、指導班が我が東山にも派遣され、特に女子青年を集めて色々な講習をした。 娯楽のない農村でリクレーションとして踊りの練習もしていた。

海にまで遊びに行く余裕もないので、当時きれいな砂浜であったプライアアズールに男女青年六十人余りが比嘉さんのトラックでピクニックを楽しんだのも良い思い出だ。

一九五九年のナタールは青年会が主体となって出来たばかりのグラウンドで第一回、家族慰安運動会を行い日頃の激しい労働から離れ家族一同楽しく過したのも遠い日の出来事。以後四五年はいつもナタールに運動会が行われていた。

五九年度は主作のトマトの値段の暴落でおそらく多くの家庭が土地代も未約のまま六十年代に入ったと思われるがこの頃から野菜作りや養鶏にも手を広げる多角営農に変わっていった。

六十年代に入り、カンピーナスを中心にした聖北青年連盟が結成され、吾が東山青年会も加入した。 その年は植民地にも多くの地主が入植して来て男子四十名女子三十名ほどの大きな青年会になり、第一回聖北陸上競技大会が東山で行われました。男女総合は我が東山が初優勝を果たした。これらの競技に出場するにはそれなりの出費が重なり、資金捻出に二代会長佐藤鉄三郎氏をはじめ会計の私、運動部長の堤雄一氏等で各組合やカンピーナスの商社をかけ巡って資金カンパに走った。私と堤氏はサンパウロまで出向きパンフレットの広告取り

## 会館建設について

後藤耕二

第四代会長牧田猛四時代1964年建設計画が総会で協議され、実行することになりました。それ以前はブラジル語学校として建築された現野球場端の屋根付施設の場所に東山農場からの寄贈された5,000枚のレンガを元に小学校が作られ、机、椅子などは市側から提供され、ブラジル語初等授業が行われていた。この学校は即日本人会の集合場所にもなったわけですが、何かと不便な点もあり、もっと大きな会館をとということで議論され意見が二分されたということです。

A論としては入植当初で経済的に苦しいのを理由に反対派 B論は話し合いの場所を作り、親睦融和を広げようと言う意見でB論が優勢で会館建設に踏み切った経緯がありました。

会館建設委員会が発足し、牧田猛会長をその長とし、当年の役員全員がその任に当たりました。

中村清次郎、水野龍資、佐藤隆俊、水野善三郎、竹内亀喜、片田仁、田村寿、田島至、後藤耕二、野田勇、大石善一、原屋敷善四郎、西岡、井手武男、黒岩茂の諸氏でした。

設計は牧田会長の才配によるもので各自が所有するユーカリを切り出し、丸太を素材とし、それを施工するために牧田会長、後藤耕二らの旧知の大工 PEREIRA BARRETOS の立花大工に要請し、コロニア在住の原屋敷善四郎大工を強力な施工助手として進行しました。

立花大工の寝食後藤耕二氏に依頼したのも大きな協力の源となったものです。

土台建設について井手伯男、宮尾忠義、氏らは次のように過去を話してくれました。

入植者の若手が反強制的に労働に出て、やぐらを組んで土台地をどしんどしんとつき閉めたと手のひらに血豆が出来るのは常だったと、だから土台は末代まで狂わないと。

建設資金について、入植者に建設分担金をお願いしたのですが、それでは足りず、寄付金も思うように集まらずといったところにこのコロニア東山の分譲集金責任者だった吉井修氏がサンパウロ近郊に住んでいる不在地主に寄付をお願いしてはということになり、当時の役員石井、堤、中村、片田、後藤氏らが、吉井氏の車で回り、一日では回りきれないでサンパウロの池田ホテルで一泊して十数名から寄付をいただいたのも楽しい思い出です。

建設後20数年がたち屋根素材が白蟻の被害を受け、随時修理が行われていましたが、1998年前面的改修に踏み切り、現在の会館を維持しています。

## 祝辞

元会長太田正一

このたびコロニア東山開発 50 周年記念祭開催とともに 50 周年記念誌の発行の運びとなったことを誠に嬉しい次第であります。

去る、1958 年植民地開発移住として聖州奥地から住みなれたふるさとに別れを惜しみつつ遠く当地に移住した人たち、奥地と変わった作物栽培に戸惑いつつ、元老池田虎之助氏のお宅を訪問、営農指導をはじめその他の指導者の支援のおかげで仲間同士力をあわせ、今の東山の発展の基礎を作った人たち、その多くが他界し、わずかの人たちも現役を去り、今は二世、三世の時代となりつつあります。

50 年の歳月は夢のごとくあっという間に過ぎ、過去となってしまいましたが、親の背を見て育った二世、三世の大活躍が今東山の発展を支えています。

終わりに、先輩先没移住者のご冥福を祈るとともに来る 50 年コロニア東山のますますの繁栄を願いつつ筆をおきます。

## Palavras do Presidente

*Taketoshi Ide*

O ano de 2008 não entra para a história da Associação Cultural e Assistencial Nipo Brasileira da Colônia TOZAN somente pela celebração de suas cinco décadas de existência, ou pela celebração do Centenário da Imigração Japonesa ao Brasil, mas, sobretudo marcada pelo esforço, pela perseverança e o trabalho árduo dos ex-Presidentes e Diretores e o importante apoio de nossos associados e de todas as Associações congêneres, empresários, colaboradores e o poder público.

O primeiro sentimento que aflora nas nossas expressões é o de gratidão aos pioneiros que permitiram a materialização de um sonho de progresso e vida feliz. Se hoje podemos considerar vencedores todos os descendentes desses imigrantes, isso se deve àqueles primeiros, que não mediram esforços para o seu crescimento econômico e social através de uma integração ampla da Associação.

Esse esforço conjunto, com o seu início na década de 50, contou com a colaboração importantíssima do idealizador da criação de uma colônia japonesa, o conde Iwasaki, proprietário da Fazenda Monte D'Este, que vendeu as glebas de terras para o cultivo, a preços e condições excepcionais.

Uma Associação só cresce, desenvolve-se, conquista adeptos, gera bem estar, se for administrada com seriedade, honestidade, trabalho e muita dedicação.

A tradição de trabalho e disciplina, que tanto encanta os admiradores da cultura japonesa, garantiu que aqueles bravos homens persistissem. Um ponto de honra era, como sempre foi, a educação dos filhos, e para tanto deram de si, sacrifícios no limite de suas forças.

Após os 50 anos de luta e a maioria já ausente, vemos que tudo valeu a pena.

A Associação está pronta para uma nova caminhada em busca de novos desafios, novos paradigmas, juntamente com todos os colaboradores, para oferecer a sociedade, ainda que modesta perante o caos que reina hoje, com as inversões de valores e costumes, uma alternativa que possa contribuir para promover o desenvolvimento e a construção de uma sociedade mais justa, igualitária e ética.

Compartilhar esse momento especial, que para nós representa um avanço nas nossas relações, muito nos orgulha e gratifica.

Continuaremos contando com o apoio, comprometimento e participação de todos.

## 目次

Palavras do Presidente .....	9
Taketoshi Ide .....	9
祝辞 .....	10
元会長太田正一 .....	10
会館建設について .....	11
後藤耕二 .....	11
青年会発足当時を回顧して .....	12
後藤健 .....	12
池田虎之輔氏の叙勲について .....	14
東治男 .....	14
野球場建設について .....	15
東治男 .....	15
継承日本語教育の意義 .....	16
佐野ハ秀子 .....	16
私の野球指導の理念 .....	18
内田高昭 .....	18
トマトの出来栄えを見に来たタマンドア .....	19
佐藤鉄三郎 .....	19
わがふるさとコロニア東山 .....	21
西忠久 .....	21
八年間の会長時代の回顧 .....	23
山口幸男 .....	23
一大花卉生産地を形成 .....	25
山口幸男 .....	25
私の心のふるさと、東山植民地五十周年おめでとう .....	26
石井さゆり .....	26
創立20周年記念の思い出コロニア東山婦人会と私 .....	27
浦口ハルミ .....	27
東山ソフトボール .....	29
池田尚昭 .....	29
大橋兄弟が確実にしたゴヤバ栽培 .....	30
聞き人 東治男 .....	30
私の第二の故郷 .....	31
池田光子 .....	31
編集後記 .....	32
東治男 .....	32

1987	小坪誠一	宮尾忠義	山口幸男		山口かおる	桧垣イネ	堤多那子
1988	小坪誠一	宮尾忠義	山口幸男		山口かおる	桧垣イネ	堤多那子
1989	小坪誠一				山口かおる	桧垣イネ	堤多那子
1990	小坪誠一				山口かおる	桧垣イネ	堤多那子
1991	小坪誠一	片田陽昭			渡辺文子	桧垣イネ	内田あき子
1992	小坪誠一	片田陽昭			渡辺文子	桧垣イネ	内田あき子
1993	小坪誠一	片田陽昭			渡辺文子	桧垣イネ	内田あき子
1994	片田陽昭				渡辺文子	桧垣イネ	内田あき子
1995	片田陽昭				後藤スミ子		
1996	山口幸男	井手伯男			後藤スミ子		
1997	山口幸男	井手伯男			後藤スミ子		
1998	山口幸男	井手伯男			後藤スミ子		
1999	山口幸男	井手伯男			後藤スミ子		
2000	山口幸男	井手伯男			後藤スミ子		
2001	山口幸男	井手伯男			後藤スミ子		
2002	山口幸男	井手伯男			後藤スミ子		
2003	山口幸男	井手伯男			後藤スミ子		
2004	井手武利	堤雄一			後藤スミ子		
2005	井手武利	堤雄一			山口マサ子	井手郁子	深沢俊子
2006	井手武利	堤雄一			山口マサ子	井手郁子	深沢俊子
2007	井手武利	岸根敬			山口マサ子	井手郁子	深沢俊子
2008	井手武利	岸根敬			山口マサ子	井手郁子	深沢俊子

## 歴代会長など

年	会長	副会長	会計	青年会長	婦人会長	婦人副会長	会計
1957							
1958	池田虎之輔						
1959	池田虎之輔			佐藤隆俊			
1960	池田虎之輔			佐藤鉄三郎			
1961	池田虎之輔			後藤健			
1962	池田虎之輔	水野善三郎		牧田稔			
1963	野田勇	牧田猛四	水田龍資	堤たけお			
1964	牧田猛四	中村精次郎	水田龍資	後藤きよし			
1965	石井三郎	後藤耕二	片田仁	井手伯男			
1966	石井三郎	佐藤隆俊	片田仁	野田アントニオ			
1967	井手武男	片田仁	黒岩寛一	後藤あきら			
1968	田島至	後藤耕二	水田龍資				
1969	後藤耕二	渡辺光一	水田龍資		婦人会発足		
1970	田島至	堤雄一	水田龍資		池田俊子	後藤アサ	原田小枝子
1971	井手武男	堤雄一	水田龍資		池田俊子	後藤アサ	原田小枝子
1972	後藤耕二	太田正一	水田龍資		田島としえ	山口かおる	堤多那子
1973	片田仁	桧垣知之	水田龍資		浦口ハルミ	後藤スミ子	小坪ヒロ子
1974	太田正一	後藤耕二	浦口明		桧垣イネ	佐藤絹子	藤本美和子
1975	山口三郎	堤雄一	後藤耕二		黒岩シズエ	野田ナホコ	渡辺文子
1976	桧垣知之	渡辺光一	小島賢太郎		原屋敷キク	大橋静子	竹内藤子
1977	渡辺光一	桧垣知之	小島賢太郎		原屋敷キク	大橋静子	竹内藤子
1978	太田正一	浦口昭	山口幸男		山口かおる	渡辺文子	岸根タヨ子
1979	桧垣知之	浦口昭	山口幸男		浦口ハルミ	原田小枝子	宮尾勝代
1980	渡辺光一	宮尾忠義	山口幸男		佐藤絹子	野田ナホコ	内田あき子
1981	渡辺光一	宮尾忠義	山口幸男		山口かおる	桧垣イネ	堤多那子
1982	渡辺光一	宮尾忠義	山口幸男		山口かおる	桧垣イネ	堤多那子
1983	渡辺光一	宮尾忠義	山口幸男		山口かおる	桧垣イネ	堤多那子
1984	小坪誠一	宮尾忠義	山口幸男		原屋敷キク	野田ナホコ	佐藤絹子
1985	小坪誠一	宮尾忠義	山口幸男		後藤スミ子	深沢きくを	堤多那子
1986	小坪誠一	宮尾忠義	山口幸男		後藤スミ子	深沢きくを	堤多那子

1999	会館敷地周囲を有刺鉄線でセルカを作る。浄水塔を新設する。トランスフォルマドール（変圧器）と 避雷針を更新する。経費は宮尾氏と分配。
2000	会員増加を見込んで会員の勧誘をする。15名勧誘する。
2001	5月20日カラオケ大会を開く。
2002	
2003	
2004	日本人会役員全員入れ替え。井手武利会長 堤雄一副会長 会計 中村リカルド 書記 小林 ソフトボール屋比久杯 ボイノロレッチ ゲートボール大会 フェイジョアード ショッピング祭り 運動会 餅つき。
2005	会計の中村氏がリオ勤務になり小林氏が会計を勤める。フェスタカイペーラ3,000にん集まる 日伯文化協会のフェスティバルドジャポンにさんかする ボイノロレッチ ゲートボール大会 フェイジョアード ショッピング祭り 運動会 餅つき。
2006	新しいバラッコン建設される 総工費15,000レアルは有志から借用する。援協巡回診療に地域のポストデアウーデから診察用寝台などを借用する。
2007	副会長岸根敬 会計中村 書記塩沢きみえ 会計でそれぞれの純益から20%日本人会に その他はそれぞれ主導した部門で分配する。レウニオンデセグランサ コロニアの治安が悪くなり水田氏宅に2回めの被害を受けたあと防犯会議を開く。

1980	球場完成資金調達にフォルクスワーゲンブラジリアを商品とするリップアーを売り出す。当選者はインディアツバの福本氏 落成式02.08.80 PREFEITO FRANCISCO AMARAL 出席
1981	浦口氏 転出 深沢氏 入植
1982	福岡県農業実習生10名コロニア東山で3ヶ月間実習する。
1983	
1984	
1985	
1986	
1987	
1988	
1989	
1990	池田虎之輔氏 勲六等旭日単光章に輝く。祝賀会は東山農場で行われる。
1991	
1992	第45回全伯少年野球大会で準優勝ロンドリーナに3対1で敗れる。
1993	小坪誠一会長死亡葬儀は親戚が主導する。49日法要日本人会館で日本人会主導。責任者山口幸男。
1994	
1995	山口定次氏 ゲートボール場開設
1996	全伯ゲートボール大会東山野球場二面を使用し競技が行われる。参加者1,250人4月20日から21日。
1997	運動場観覧席屋根新築。旧学校白蟻被害で取り壊し新築される。9月にはショッピ祭り。
1998	会館が白蟻被害のため全面的改修される。創立40周年記念式。 日本移民90周年記念式に参加する。

1964	牧田会長時に本会館工事着工竣工 大工は PEREIRA BARRETO から会長の知人を呼び施工される。会館建設委員 1964年度役員全員がその任に当たる。 牧田猛四、中村精次郎、水野龍資、佐藤隆俊、水野善三郎、竹内亀喜、片田仁、田村寿、田島至、後藤耕二、野田勇、大石善一、原屋敷善四郎、西岡、井手武男、黒岩茂。計画は牧田会長 植民地内に所有するユウカリを抛出してもらい立花大工に原屋敷善四郎大工が補佐役として植民地全員が一貫として完成させる。そのときの青年会長 後藤きよし。その後、数年に亘って公式の会長を勤める。
1965	岸根 入植 青年会長 井出アルベルト 青年会はリオデジャネイロに観光旅行。活動資金にバタタドーセを植える。
1966	山口 入植 青年会長 野田アントニオ 活動資金にかぼちゃを植える。
1967	青年会長 後藤あきら
1968	浦口 入植
1969	田村氏宅一角で日本語学校再開 山口幸男氏がグラジオーラスの栽培を始める。オレンジよりも10年まえとのこと。婦人会発足初代会長池田としこ 相談役 田島、野田、片田
1970	各種料理教室が開かれる。
1971	池田氏次女 日本語教師を勤める 農村電化料金の交渉を井手武男会長、堤雄一、宮尾忠義が電力会社と交渉、改善される。
1972	
1973	田村阿砂子、浦口、中山 日本語学校教師として3年間勤める。
1974	小坪会長通学用バス導入でバリンニョスのバス会社と交渉、カンピーナスアダルベルト校間を一日一往復。植民地主要道路舗装 (州当局の農産物搬出のプロジェクトの中に入り、舗装される)。
1975	鈴木荘一氏が使用人、永井氏が日語教師を勤める。 市営バスがジョッケイクラブまで運行される。
1976	
1977	日本人会創立20周年記念式 記念アルバム浦口氏所有
1978	新しい球場の測量設計始まり 東山農場から会所有の地権を受ける 太田、堀内、野口姉妹の証言。球場建設委員 顧問 池田虎之輔 委員長 山口三郎 委員 堤雄一 佐藤鉄三郎 井手伯男 宮尾忠義 片田陽昭 増永勉 内田高昭 山田 会員外 山岸貞夫 前田好美 東など 16名
1979	

## コロニア東山創立50周年概要

1956	東山農場がその一部を分割分譲を始める分譲責任者 吉井修氏 入植者 大石善一、比嘉徳次、比嘉栄
1957	入植者 塚本正、田村寿、宮尾只美
1958	入植者 後藤兄弟、牧田猛四、佐藤兄弟、池田虎之助、水野善三郎、野田勇、山田平一郎、竹内亀喜、岡畑惣一、中山俊一、田島至、井手武男、渡辺光一、鈴木荘一、堤一家、原田孝、桧垣知之、難破、城間、西岡、石内兄弟、服部、又井、藤永、段野、黒田寛一、藤本守人、石井三郎、黒岩茂
	敷地内にブラジル語学校が建設される。東山農場から5千枚のレンガと左官が提供される。机、椅子はカンピーナス市から提供される。先生はピラシカーバ出身の子供連れの方で田村寿の家に無料寄宿する。この学校が日本人会の会場にもなった。
1959	正月元旦家長十五名男女青年数十名が新築区された池田邸に招待され、広間にシートの上に座って東山醸造からの祝い酒で乾杯。青年会発足初代会長 佐藤隆俊。野球チームが結成され、アマライス、マクッコ、ペドラブランカ、カンピーナスなどのチームの交歓試合をする。カンピーナス農事試験場 CATI の4S活動の指導で講師が派遣され、料理、ダンスなどの講習が行われた。比嘉氏のトラックでアメリカーナのプライアアズルにピクニックに行く。クリスマスに慰安運動会始まるそれ以後、四五年続く。これが慣例の運動会の始まり。(太田氏は東山農場会計野口氏と親交があり両氏が東山農場総支配人山本氏に交渉し、現会館所有地を暫定地権を確保する。地権譲渡は1978年)
1960	田島、原屋敷、藤本、石井 入植 青年会会長2 佐藤鉄三郎 日本語学校は田村氏の家で行われる 教師として東山農場研修生2人(黒木、林)ブラジル語学校の先生はシャレッチで送り迎えする。カンピーナスを中心にした聖北青年会が組織され、東山もこれに加入 男女青年約70名。第一回野球大会陸上競技大会コロニア東山で行われ、男女とも総合優勝する。これらの活動資金捻出に組合、商社など遠くはサンパウロまで寄付金募集に行く。
1961	片田、中村 入植 青年会会長3 後藤健 聖北野球大会で優勝し、全伯大会に進む。甲子園出場経験者を指導者として練習するも全伯大会の壁は厚く、全敗。
1962	大橋 入植 青年会会長4 牧田稔 ブラジル語学校はジョッケイクラブの学校に編入される。
1963	渡辺氏 入植 青年会会長5 堤たけお

# コロニア東山

創立50周年

記念誌

1957年~2007年

(平成20年4月6日)

(Ver. 1.09)

